

第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会

第 8 回 募金・協賛推進特別委員会

会議資料



2024 滋賀国体・全国障害者スポーツ大会マスコットキャラクター
「キャッピー」 「チャッピー」

日時：平成 31 年 3 月 28 日（木）14:00～16:00
会場：滋賀県大津合同庁舎 7-B 会議室

**第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会募金に係る
平成 30 年度 取組実績 (案)**

1 寄附の実績 (H31. 3. 26 現在)

平成 30 年度実績 59,288,958 円

寄附の種類	件数	寄附金額	備 考
個人	14 件	44,530 円	
企業・団体	17 件	59,030,228 円	
イベント	23 件	112,972 円	街頭募金、スポーツイベント等での募金
据置き募金箱	—	72,728 円	
その他	1 件	28,500 円	びわ湖レイクサイドマラソン(チャリティーランナー (@500 円))
計	55 件	59,288,958 円	(使途) 競技力向上 278,781 円 施設整備 59,010,177 円

<参考>

年 度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	計
件____数	2 件	78 件	93 件	110 件	55 件	338 件
寄附金額	11,000 千円	20,066 千円	23,320 千円	30,407 千円	59,289 千円	144,082 千円

2 主な取組

(1) 個人

① 街頭やイベント会場での募金活動の実施

より多くの方に大会開催の周知と募金に協力いただけるよう、寄附返礼グッズとして、新たに大会マスコットキャラクターを活用したピンバッチを作成し、缶バッジやステッカーと併せてイベント等での募金活動で活用した。

また、県内アスリートの協力を得て、街頭募金活動を実施するとともに、大会マスコットキャラクターであるキャプフィー・チャップフィーと一緒に両大会の周知および募金活動を実施した。

➤寄附返礼グッズの作成

ピンバッジ 1,000 個

➤ 街頭募金活動 (9/21 J R 石山駅、J R 彦根駅) … ㊤

参加者：東レアローズ、江上陽子選手（パラバドミントン）、田中浩二選手（シッティングバレーボール）、立命館大学体育会ラグビー部およびバスケットボール部、びわこ成蹊スポーツ大学バスケットボール部、滋賀県スポーツ協会、滋賀県障害者スポーツ協会他 合計 75 名

➤ スポーツイベント等での募金活動

- ・滋賀県開催準備委員会第 6 回総会(5/21 琵琶湖ホテル)
- ・「みんなで創る 健康しが」キックオフイベント(7/21 イオンモール草津) … ㊤
- ・第 3 回 BIWAKO 湖フェス 2018 (8/4 サンシャインビーチ)
- ・日本生命みんなの 2020 全国キャラバン(9/1・2 イオンモール草津)
- ・全国市町村交流レガッタ(9/15 滋賀県立琵琶湖漕艇場)
- ・福井しあわせ元気国体・大会結団壮行式(9/20 ピアザ淡海)
- ・イナズマロックフェス(9/22～24 烏丸半島芝生広場)… ㊤
- ・交通安全フェア(10/13 ドラゴンハット)… ㊤
- ・近江ゆかりの会(10/16 東京：品川プリンスホテル) … ㊤
- ・ご当地キャラ博 in 彦根(10/20・21 彦根市夢京橋キャッスルロード周辺)
- ・ここ滋賀 1 周年記念イベント(11/3 東京：ここ滋賀)
- ・スポーツフェスティバル(11/10・11 イオンモール滋賀)
- ・びわ湖男女駅伝フェスティバル(11/25 希望が丘文化公園)
- ・Vプレミアリーグ(12/2 ウカルちゃんアリーナ)
- ・「食」が「健康」を考えるフォーラム(12/2 ビバシティ彦根)
- ・車いすバスケットボール大会 BIWAKOCUP2018
(12/16 におの浜ふれあいスポーツセンター)
- ・近畿マシンローイング大会(1/20 ウカルちゃんアリーナ)
- ・2024 国スポ記念講演(2/2 ピアザ淡海)
- ・びわ湖レイクサイドマラソン(2/24 烏丸半島(フィニッシュ地点)) … ㊤
- ・地域スポーツシンポジウム(3/3 立命館大学)

- ・びわ湖毎日マラソン大会（3/10 皇子山陸上競技場）

② クラウドファンディングの手法を用いた寄附募集の実施

「選手の発掘・育成および強化」「施設整備」にかかる寄附募集にあたり、手軽に、かつ気軽に寄附できる環境整備のため、クラウドファンディングを活用した寄附を募った。（実施期間：4/2～3/31 JapanGiving、19,000円（手数料控除前））

③ スポーツイベント等とのタイアップの実施

イベント会場での広報・募金活動の他、「びわ湖レイクサイドマラソン」でチャリティーランナーの募集において参加料の一部を寄附いただいた。

- ・びわ湖レイクサイドマラソンチャリティーランナー 57名 28,500円

④ 募金箱の設置箇所の拡大

県内のスポーツ施設の他、文化施設や民間施設への設置協力を依頼し、今年度、24カ所設置した。

- ・平成30年度末募金箱設置箇所 105カ所（平成29年度末 81カ所）
72,728円（3/26現在）

（2）企業・団体

① 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催周知と連動した寄附依頼

各種企業・団体への直接訪問や、団体の例会や企業に対する説明会等において、大会の開催準備状況を説明のうえ、寄附を依頼した。

- ・企業・団体：16回（うち出前講座も兼ねて実施したもの：6回）

② 寄附者にメリットのあるメニューの提示

県内外の企業・団体を幅広く訪問して寄附依頼を行うとともに、寄附者にメリットのある寄附手法をメニュー化して提示し、企業のニーズに応えられるような提案を行った。

③ マスコットキャラクターを活用した使用料の受け入れ… ①

企業等が商業目的で大会マスコットを活用し、使用料として受け入れた。
…使用料のため寄附額に計上はしない。

3 寄附金を活用した事業展開

- ①「選手の育成および強化」のためにいただいた1,000万円については、平成30年度に実施した競技力向上事業に充当した。

➤次世代アスリート発掘育成プロジェクト 500万円… ②②

滋賀県内の小学校5年生を対象に運動能力テストを行い、約30名を選考。「滋

「食育プログラム」や「競技体験プログラム」などの育成プログラムを実施し、将来、全国大会や国際大会で活躍できるトップアスリートを育成

➤**競技団体育成・強化対策事業（パラアスリート育成支援） 200 万円**

競技団体における障害者スポーツへの理解の促進を図りつつ、全国障害者スポーツ大会等において活躍できる選手を育成するための強化事業を実施

➤**ターゲットエイジ重点強化事業 300 万円**

滋賀で開催する国スポにおいて少年種別の主力となる選手（ターゲットエイジ：小学校4～6年生）を指定し、重点的に強化事業を実施

個人

A



B



平成30年7月21日
「みんなで創る 健康しが」キックオフイベント

C



平成30年10月13日
交通安全フェア

E



平成30年10月16日
近江ゆかりの会



平成30年9月21日
街頭募金



D



平成30年9月22～24日
イナズマロックフェス2018

F



平成31年2月24日
びわ湖レイクサイドマラソン

F

寄附の方法

①銀行振込による方法
振込の主な金融機関は振込用紙を添付して送りますので窓口にお渡しください。

②郵便振替による方法
郵便の公共施設などに郵便振替を郵送しています。郵便振替は郵便のホームページにてお申し込みください。振込用紙に振込先を記入し、郵便物と一緒に送付してください。

③インターネットによる方法
郵便振替ポータルサイト「PayPay」から、クレジット決済、銀行振込決済、ネットバンク決済により、寄附を行うことができます。

寄附に関する詳しい情報は、
関係各課のホームページをご覧ください。

寄附金・全スポンサー 寄附

①法人の場合
法人振込に基づき、寄附金の全額を振替入ることができます。

②個人の場合
関係各課および地方振込に基づき、200万円を超える金額を寄附された場合は、関係各課より後援の寄附金控除の対象となります。

寄附の使途

競技力の向上
選手がアスリートの発展をはじめる。競技力向上に向けた事業のために活用します。また、大会の運営に活用します。

選手・スタッフの発展
選手・スタッフの発展に活用します。また、大会の運営に活用します。

大会の運営
大会が定めていくと、会場に集まった選手を応援するための施設整備、大会の運営や運営のサポートなど、大会の運営に活用します。

お祝い品
選手・スタッフの発展に活用します。また、大会の運営に活用します。

募金リーフレット

G



寄附返礼グッズ

H



湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会 **2024**



愛称・スローガン等ロゴデザイン

企業・団体

I



平成31年3月19日
寄附者への感謝状贈呈

J



マスコットキャラクターを活用した商品開発
(キャラクター商業目的利用)

寄附金の活用

K



L



次世代アスリート発掘育成事業
「滋賀レイキッズ」

**第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会募金に係る
平成 31 年度 取組計画（案）**

平成 31 年度においては、平成 30 年度に決定した愛称・スローガンのロゴデザインやマスコットキャラクターを用いた寄附返礼グッズや大会専用ホームページの活用による募金活動の展開、愛称・スローガンロゴやマスコットキャラクターを用いた寄附付商品の委託販売、PRグッズ等の活用による企業への働きかけの強化などを主軸として、以下の取組を進める。

1 個人

引き続き寄附受付の手段を拡大するとともに、大会開催の周知に向けた広報活動と連携して、幅広い世代を対象とした寄附募集の周知と活動機会の充実を図る。

（１）寄附付商品委託販売の検討・実施（新規）

マスコットキャラクターを活用した募金グッズを製作し、委託販売者の店舗等で販売。手数料を除く、売上金を寄附とする仕組みを整備

（２）寄附返礼グッズの充実

募金協力向け、幅広い世代を対象とした愛称ロゴやマスコットキャラクターをデザインしたピンバッジ等の寄附返礼グッズを充実

（３）街頭やイベント会場での募金活動の実施

寄附返礼グッズ等を活用し、県内のアスリートにも参加協力を依頼して実施

（４）クラウドファンディングによる寄附の受入れ

手軽に、かつ気軽に寄附できる環境整備のため、インターネット寄附ポータルサイトを活用して寄附を受け入れるとともに、大会専用ホームページとの相互リンクにより寄附募集を周知

（５）マスコットキャラクター「キャプフィー」の着ぐるみ製作に係る寄附募集の実施

「キャプフィー」着ぐるみの老朽化に伴い、着ぐるみを新調するにあたり、クラウドファンディングも活用し、寄附募集を実施

（６）募金箱の設置箇所の拡大

県立・市町立のスポーツ施設・文化施設の他、民間施設への設置協力を積極的に拡大

（７）学校との連携

県内の学校等と連携協力により、若い世代の発想を活かした寄附募集の機運醸成を図る

➤ **募金箱デザインコンテストの実施**

平成29年度に引き続き、県内の小中学校等に、募金箱に貼付するステッカーの

デザイン募集を行い、入賞作品を県内各所に設置する募金箱に貼付のうえ活用

(8) スポーツイベント等とのタイアップの実施

びわ湖レイクサイドマラソンでのチャリティーランナー募集の他、スポーツイベント等とタイアップしたチャリティーの実施拡大

2 企業・団体

直接訪問による寄附依頼を引き続き実施するとともに、企業活動の取組の一環として大会準備を応援していただけるような、多様な手法を積極的に提示する。

(1) 直接訪問による具体的なメニューの提示

県内外の企業・団体を幅広く訪問して寄附依頼を行うとともに、寄附者にメリットのある寄附手法をメニュー化して提示し、企業のニーズに応えられるような提案を行い、さらなる寄附を獲得

➤「滋賀のスポーツ応援プロジェクト」の実施

企業・団体名の入った寄附グッズを作成・配付することで、企業等による大会への寄附機会の拡大に併せ、寄附グッズの活用を通じ、大会および本県のスポーツ推進を周知

➤「飲んで応援！プロジェクト」の実施

特定非営利活動法人寄附型自動販売機普及協会の協力のもと、寄附型自動販売機を活用し、自販機設置協力者（設置オーナー）があらかじめ設定した飲料一本あたりの寄附額に基づく寄附を受入

(2) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催周知と連動した寄附依頼

県内外の企業への訪問を実施するとともに、県内の商工団体をはじめとする各種団体、国内各地の滋賀県人会の協力を得て、大会開催の周知に併せ、ふるさと滋賀での大会開催に向けた寄附の依頼を引き続き実施

3 寄附金を活用した事業展開

「選手の育成および強化」のためにいただいた 50 万円については、平成 31 年度に実施する競技力向上事業に充当。

(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト 25 万円

引き続き「滋賀レイキッズ」に対し、育成プログラムを実施し、将来のアスリートを育成

(2) 競技団体育成・強化対策事業（パラアスリート強化） 25 万円

競技団体における障害者スポーツへの理解の促進を図りつつ、全国障害者スポーツ大会等において活躍できる選手を育成するための強化事業を実施

具体的な寄附メニューの提示について

1. 「滋賀のスポーツ応援プロジェクト」について

- 寄附いただいた企業・団体のうち、希望者に対して、企業・団体名を記載した「寄附グッズ」をお渡しします。
- 「寄附グッズ」は、寄附いただいた企業・団体が滋賀のスポーツを盛り上げるサポーターであることをPRするための広報にご活用いただきます。
- グッズの内容・数量等は、企業等のニーズに応じ設定します。（グッズの制作経費は寄附額の2割を限度とします。）

<イメージ>

- ・横断幕

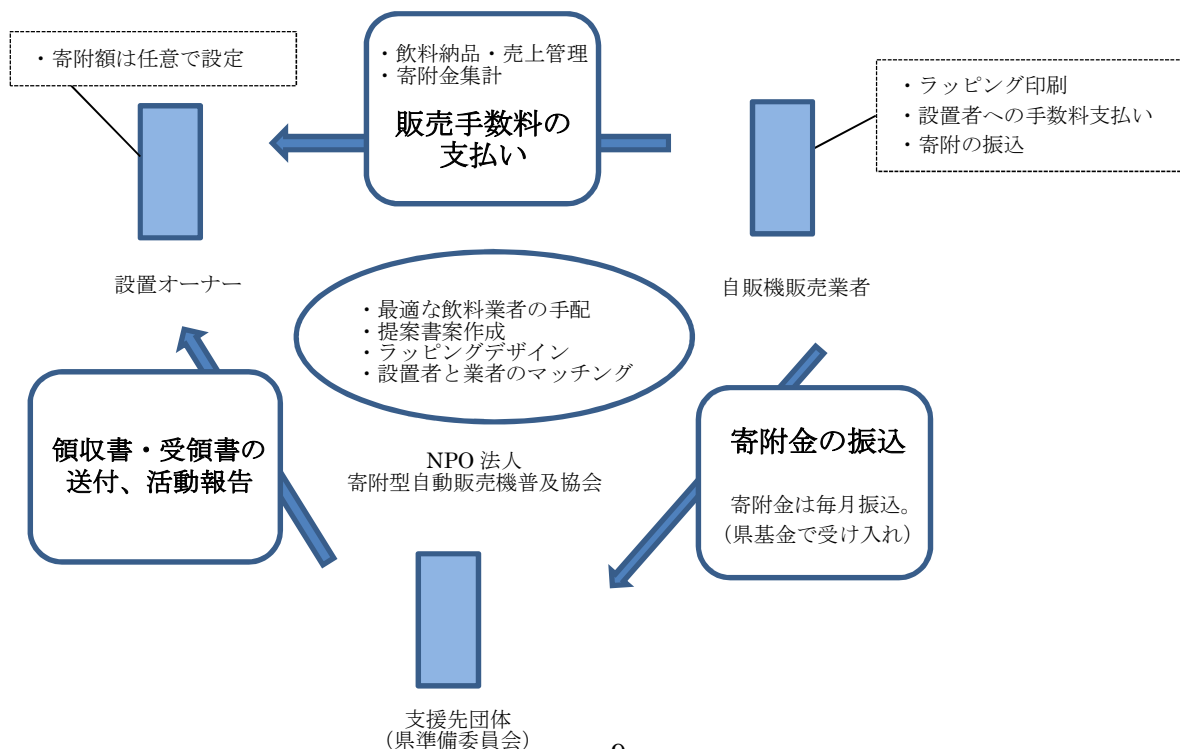


<寄附グッズ>

- ・横断幕
- ・のぼり旗
- ・マグネット 等

2. 「飲んで応援！プロジェクト」について

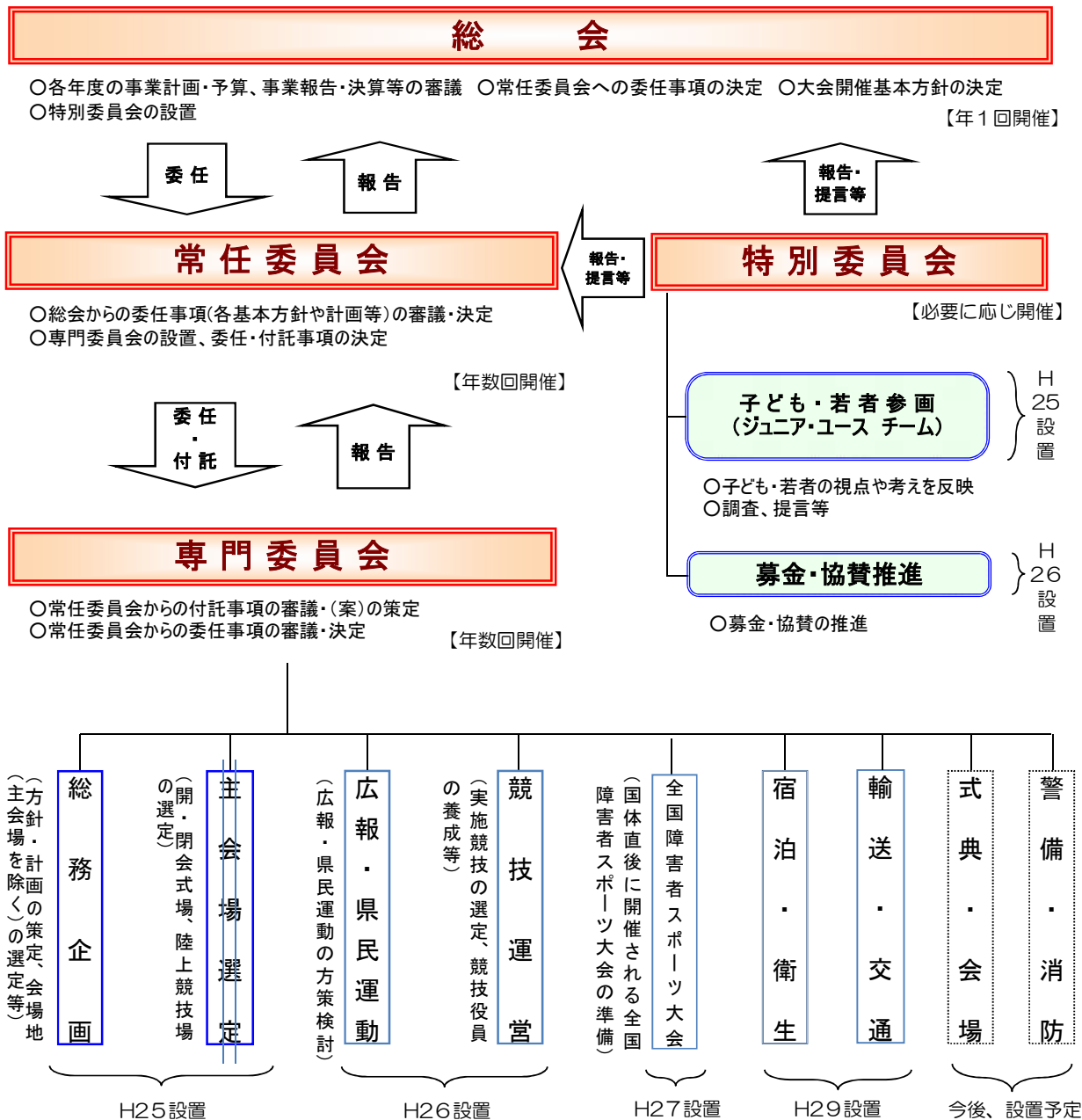
- NPO法人寄附型自動販売機普及協会のご協力を得て、自販機での飲料売上の一部を定期的に寄附金として納付いただきます。



第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会 滋賀県開催準備委員会 組織図

(平成30年5月21日現在)

事務局：県民生活部スポーツ局国体・全国障害者スポーツ大会準備室



総 会	会長 (知事)、 副会長9名 (県議会議長、副知事、県スポーツ協会会長、県障害者スポーツ協会会長、県教育委員会教育長、市長会会長、町村会会長、滋賀経済団体連合会会長)、 顧問6名 (県選出国会議員)、 参与56名 (県議会議員、県教育委員会委員、報道各社代表)、 委員265名 (各市町長、各市町議会議長、各関係機関・団体の長、県部長級職員、県警本部長等)、 監事3名 (県会計管理者、市町会計管理者の代表) 合計 340名
常任委員会	委員長 (会長)、 副委員長9名 (副会長)、 常任委員73名 (県議会副議長・関係委員会委員長、各市町長、主要機関・団体の長) 合計 83名
子ども・若者参画特別委員会	県内の子ども・若者から公募等により選任
募金・協賛推進特別委員会	経済・社会分野、スポーツ分野等から選任
各専門委員会	各々の設置目的に応じ選任

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会 構成図

平成30年5月21日現在

会長（１名） 知事	副会長（９名） 県議会議員、副知事、（公財）滋賀県スポーツ協会会長、県障害者スポーツ協会会長、県教育委員会教育長、市長会会長、町村会会長、滋賀経済団体連合会会長
顧問（６名） 県選出国会議員	参与（５６名） 県議会議員（副会長・委員以外）、県教育委員会委員（副会長・委員以外）、報道各社代表

委員（ 2 6 5 名）				※○は常任委員(73名)				※委員総数としては、委員のうちから選任された副会長9名を含めた273名											
県議会関係（ 7 名）				学校関係（20名）				スポーツ関係（ 90 名）				医療・福祉関係（26名）				警備・消防関係（ 2 名）			
○ 副議長				滋賀県私立幼稚園協会会長				○（公財）滋賀県スポーツ協会副会長(5名)・理事長				○（一社）滋賀県医師会会長				（公財）滋賀県消防協会会長			
○ 県民生活・土木交通常任委員会委員長				滋賀県国公立幼稚園・こども園長会会長				各都市体育協会・スポーツ協会(16協会)会長				（一社）滋賀県歯科医師会会長				（一社）滋賀県警備業協会会長			
〃 副委員長				○ 滋賀県小学校長会会長				○ 滋賀県小学校体育連盟会長				（一社）滋賀県薬剤師会会長							
○ スポーツ振興対策特別委員会委員長				○ 滋賀県中学校長会会長				○ 滋賀県中学校体育連盟会長				（公社）滋賀県獣医師会会長							
〃 副委員長				○ 滋賀県高等学校長協会会長				○ 滋賀県高等学校体育連盟会長				○（公社）滋賀県看護協会会長							
				○ 滋賀県私立中学高等学校連合会会長				○ 滋賀県スポーツ推進委員協議会会長				○（公社）滋賀県理学療法士会会長							
スポーツ振興議員連盟 代表				○ 滋賀県特別支援学校長会会長				滋賀県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長				（公社）滋賀県作業療法士会会長							
〃 副代表				滋賀県専修学校各種学校連合会会長				○ 滋賀県障害者スポーツ協会副会長(6名)				滋賀県言語聴覚士会会長							
				県内各大学(12大学)学長				滋賀県スポーツ少年団本部長				（一社）滋賀県鍼灸マッサージ師会会長							
								○ 滋賀県レクリエーション協会会長				○（公社）滋賀県柔道整復師会会長							
								滋賀県スポーツ指導者協議会会長				○（一社）滋賀県病院協会会長							
								滋賀県企業スポーツ振興協議会会長				滋賀県スポーツ医会会長							
								滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会会長				日本赤十字社滋賀県支部長							
								スペシャルオリンピックス日本・滋賀会長				○（社福）滋賀県社会福祉協議会会長							
								各競技団体(51団体)の長				（公財）滋賀県身体障害者福祉協会会長							
												（特非）滋賀県精神障害者家族会連合会会長							
												○（公社）滋賀県手をつなぐ育成会理事長							
												（一社）滋賀県保育協議会会長							
												滋賀県健康推進員団体連絡協議会会長							
												○（社福）滋賀県視覚障害者福祉協会会長							
												（社福）滋賀県聴覚障害者福祉協会理事長							
												滋賀県知的ハンディをもつ人の福祉協会会長							
												滋賀県精神障害者地域支援事業所協議会会長							
												滋賀県児童成人福祉施設協議会会長							
												滋賀県障害者自立支援協議会							
												滋賀県社会就労事業振興センター							
																</			

平成 27 年 (2015 年) 8 月 31 日
第 3 回 総 会 決 定
平成 29 年 (2017 年) 7 月 31 日
第 5 回 総 会 改 正

第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会 募金推進要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、平成36年(2024年)の第79回国民体育大会および第24回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」と総称する。）を滋賀県で開催するにあたり、県民総参加でつくる大会に向けて、開催に係る機運の醸成や大会の周知、大会の円滑な運営を図るために行う寄附金の募集（以下「募金」という。）について、必要な事項を定める。

(推進)

第 2 条 募金は、第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会（以下「開催準備委員会」という。）が推進する。

- 2 開催準備委員会の構成員は、連携協力して募金の推進にあたるものとする。
- 3 開催準備委員会は、募金を推進するための計画を策定するものとする。
- 4 前項の計画は、進捗状況等を踏まえ、必要に応じ見直すものとする。

(名称等)

第 3 条 募金は、「第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会募金」という名称を用いて行うものとする。

- 2 募金は、前項の名称のほか、必要に応じ愛称を用いて行うことができる。

(対象)

第 4 条 募金は、滋賀県内外の個人および企業・団体を対象として行うものとする。

(期間)

第 5 条 募金の期間は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 第 7 条第 1 号に掲げる経費のための募金 開催準備委員会の総会の議決により定める日から大会最終日まで
- (2) 第 7 条第 2 号に掲げる経費のための募金 平成29年 7 月31日から大会最終日まで
- (3) 第 7 条第 3 号および第 4 号に掲げる経費のための募金 平成27年 8 月31日から開催準備委員会の総会の議決により定める日まで

(受入れ)

第6条 募金による寄附金は、滋賀県が受け入れ、滋賀県国民体育大会・全国障害者スポーツ大会運営等基金に積立てるものとする。

(使途)

第7条 滋賀県は、前項の規定により受け入れた寄附金を第5条各号の募金の期間に応じ、次の各号に掲げる経費の財源に充てるものとする。

- (1) 大会運営に要する経費
- (2) 大会の広報に要する経費
- (3) 大会に向けたスポーツ選手の発掘、育成および強化に要する経費
- (4) 大会に向けたスポーツ施設の整備に要する経費

(謝意表明)

第8条 寄附者に対しては、開催準備委員会会長が別に定めるところにより、謝意を表明する。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、募金の推進に関し必要な事項は、開催準備委員会会長が定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月31日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年7月31日から施行する。

平成27年(2015年)8月31日
第 3 回 総 会 決 定

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会 募金推進計画

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会募金推進要綱（以下「要綱」という。）第2条第3項の規定に基づき、寄附を通じた第79回国民体育大会および第24回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」と総称する。）への参加を促進するため、次のとおり計画的かつ戦略的に募金を推進するものとする。

1. 推進体制

開催準備委員会の構成員は、各々の会員や加盟団体等に募金の周知を図るとともに、寄附の呼びかけを行うものとする。また、募金に係る広報活動等の取組についても連携協力して行うものとする。

2. 推進に向けた視点

次の3つの視点に基づき、取組を推進する。

(1)「寄附したいと思っていただくための工夫」

滋賀や大会を応援したいという思いの醸成を図る。

(2)「気軽に寄附していただくための工夫」

寄附しようと思った時に、気軽に寄附できる環境を整備する。

(3)「活動を持続させるための工夫」

長期間にわたる募金を持続させるために必要な工夫を行う。

3. 具体的な取組

(1)様々な募金活動の展開

ア 個人

- ・ 県内の方をはじめとして、県外在住の滋賀ゆかりの方にも寄附を呼びかける。
- ・ 大会記念物品等の購入を通じた寄附を呼びかける。
- ・ 公共施設や民間施設に募金箱を設置する。また、募金箱については、スポーツイベントをはじめとする各種イベント時にも設置するなど寄附機会の拡大を図る。
- ・ 駅や商業施設等において、街頭募金を原則として年に1回実施する。
- ・ 上記のほか、必要となる取組を実施する。

イ 企業・団体

- ・ 県内の企業・団体をはじめとして、県外の滋賀ゆかりの企業・団体についても直接訪問するなどにより寄附を依頼する。また、県内に事業所等があり県外に本社がある企業については、必要に応じ本社を訪問して寄附を依頼する。
- ・ 寄附については、通常の寄附のほか、寄附付き商品の販売、主催イベントの参加料や運営する施設の利用料に寄附を含める方法などについても協力を依頼する。
- ・ 職場募金への配慮を依頼する。
- ・ マスコットキャラクターのグッズ販売等について協力を依頼する。
- ・ 上記のほか、必要となる取組を実施する。

(2) 戦略的な広報活動の展開

- ・ インターネット、リーフレット、広報誌、屋外広告物等の多種多様な媒体を活用して戦略的に広報を行う。また、必要に応じ大会開催のプレイベント等との連携を図る。
- ・ 広報にあたっては、選手の動向や思いを発信するなどにより、募金の趣旨に共感してもらうための工夫をする。
- ・ 寄附について税の優遇措置があることを周知する。

(3) 学校との連携協力

- ・ 県内の大学をはじめとした各種学校と連携協力し、若い世代による募金を含む大会全般を盛り上げる取組を実施する。（例：募金箱コンクール、広報物のデザインコンテスト、募金アイデアコンペ等）

(4) 滋賀ゆかりの著名人やトップアスリートへの協力依頼

- ・ 各種広報活動やイベントへの出席等について協力を依頼する。
- ・ グッズ等の「モノ」のほか、一緒に何かをする権利等の「コト」の提供についても協力を依頼する。

(5) 寄附への謝意表明

- ・ 礼状の送付その他の方法で謝意を表明する。
- ・ 同意がある場合は、インターネットや開催準備委員会の総会等を通じ、氏名または名称を公表し、その厚意を讃える。

(6) 結果のフィードバック

- ・ 寄附金を充当した事業の実績や成果について、レポートを作成しインターネット等を通じ公表することなどにより、寄附者に報告する。

(7) 様々な支払手段の設定

- ・ 募金専用納付書の作成や、募金箱の設置、クレジットカードによる寄附、その他インターネットを活用した寄附など様々な支払手段を設定し、手軽に、かつ気軽に寄附できるための環境整備を図る。

(8) メリハリをつけた推進

- ・ 週単位または月単位の取組集中期間を設ける。
- ・ 取組の開始時期をあえてずらしたり、進捗状況等を踏まえて刺激となる新たな取組を追加するなどにより息切れを防ぐ。

4. 推進計画の進行管理

推進計画については、取組の進捗状況等を「募金・協賛推進特別委員会」において毎年検証するとともに、要綱第2条第4項の規定に基づき、必要があるときは、開催準備委員会の総会の議決を経て変更する。

全 体 ス ケ ジ ュ ー ル

○募金の期間

		H27 (2015) 9年前	H28 (2016) 8年前	H29 (2017) 7年前	H30 (2018) 6年前	H31 (2019) 5年前	H32 (2020) 4年前	H33 (2021) 3年前	H34 (2022) 2年前	H35 (2023) 1年前	H36 (2024) -
						開催内定		開催決定		リハーサル大会	開催
使 途	大 会 運 営						(始期未定)				
	大 会 の 広 報										
	選手 の 発 掘 ・ 育 成 ・ 強 化										(終期未定)
	施 設 整 備										(終期未定)
【参考】企業協賛											

○具体的な取組

		H27 (2015) 9年前	H28 (2016) 8年前	H29 (2017) 7年前	H30 (2018) 6年前	H31 (2019) 5年前	H32 (2020) 4年前	H33 (2021) 3年前	H34 (2022) 2年前	H35 (2023) 1年前	H36 (2024) -
						開催内定		開催決定		リハーサル大会	開催
		スタート・ダッシュ			キープ				スパート		
様々な募金活動の展開 個 人											
寄附の呼びかけ		インターネット、リーフレット、広報誌等の多種多様な媒体を活用して寄附を呼びかけ(記念品等の購入による寄附含む) 県内の方をはじめとして、県外の滋賀ゆかりの方にも呼びかけ									
募金箱の設置		公共・民間施設に設置(+イベント時)			徐々に拡大 (+イベント時)				県内どこでも見かけられるように設置 (+イベント時)		
街頭募金の実施		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
					開催内定イベント		開催決定イベント		開催直前イベント		

		H27 (2015) 9年前	H28 (2016) 8年前	H29 (2017) 7年前	H30 (2018) 6年前	H31 (2019) 5年前	H32 (2020) 4年前	H33 (2021) 3年前	H34 (2022) 2年前	H35 (2023) 1年前	H36 (2024) －	
						開催内定		開催決定		リハーサル大会	開催	
		スタート・ダッシュ			キープ					スパート		
(様々な募金活動の展開)												
企業・団体												
寄附の呼びかけ		県内の企業・団体や滋賀にゆかりを持つ県外の企業・団体に対し、直接訪問や依頼状送付などにより寄附を依頼 県内に本社がない企業については、必要に応じ本社を訪問するなどにより寄附を依頼										
寄附付き商品の販売、イベント参加料や施設利用料に寄附を含む方法などへの協力依頼		直接訪問等により協力依頼			対象商品、イベント、施設の拡大を目指して協力依頼				さらなる拡大を目指して協力依頼			
マスコットグッズ販売の協力依頼					ぬいぐるみなどのグッズの販売を依頼				グッズの種類や、協力企業数の拡大を目指して協力依頼			
戦略的な広報活動の展開		インターネット、リーフレット、広報誌、屋外広告物など多種多様な媒体により戦略的に広報を行う										
						内定イベントとの連携		決定イベントとの連携		1年前イベントとの連携	開催イベントとの連携	
学校との連携		関係機関等と調整	小学生による募金箱コンクール									
					広報物デザインコンテスト、募金アイデアコンペなど							
滋賀ゆかりの著名人やトップアスリートへの協力依頼		直接訪問により協力を依頼								さらなる拡大を目指して協力を依頼		



国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会 ～ 開催に向けた2019年度の主な取組 ～



開催準備委員会

負担金 45,000千円

(1)各競技会場の選定

- ◆国スポ正式競技の会場地選定については、調整中の8競技のうち、調整が終了したものを第5次内定（案）として、国スポ公開競技と障スポ正式競技についても調整が終了した競技について第1次内定（案）として、2019年4月開催の「総務企画専門委員会」で審議のうえ、5月開催の「常任委員会」に諮り決定する。（残る競技については、2019年度中に調整。）
- ◆内定済みの競技については、引き続き中央競技団体の正規視察を受け入れ。
- ◆国スポデモンストレーションスポーツ、障スポオープン競技の募集を開始。

(2)開催準備委員会における大会準備

①「開催基本構想」の策定

- ◆大会準備・運営および大会終了後のレガシー創出の指針となる「開催基本構想」を2019年5月の常任委員会で策定。

②競技運営にかかる検討

- ◆国スポの競技会運営において資格が必要な役員等の養成を進めるとともに、国スポにおける役員編成について、具体的な検討に着手。
- ◆大会開催時に必要な競技用具整備に向けた具体的な検討に着手。
- ◆リハーサル大会の開催基準要項の策定に着手。

③宿泊・衛生にかかる検討

- ◆大会開催時の配宿計画作成の前段階となる仮配宿計画を策定するほか、宿泊施設充足対策要項策定に着手。

④輸送・交通にかかる検討

- ◆総合開閉会式における輸送計画を検討するとともに、各市町の輸送業務の指針となる会場地市町輸送・交通業務指針策定に着手。

⑤全国障害者スポーツ大会特有の準備

- ◆大会開催時に必要な情報支援ボランティアの養成に向けた検討を実施。

⑥式典・会場/警備・消防にかかる検討

- ◆式典・会場、警備・消防の専門委員会を新たに設置し、基本方針策定に向けた検討を実施。

(3)開催機運醸成に向けた取組

①広報・県民運動の展開

- ◆開催内定を記念したイベントを実施するほか、大会に向け、大会マスコットキャラクター「キャプフィー＆チャッフィー」を積極的に活用するとともに公共交通機関を活用した広報やスポーツイベントにおける広報を行い、大会の認知度向上に努める。
- ◆大会専用ホームページを通じた情報発信を積極的に実施。
- ◆県民運動の具体的な取組内容について検討を実施。

②寄附募集の推進

- ◆寄附を通じて「滋賀のスポーツを応援」いただけるよう、広報活動と連携しながら、県民・企業の皆様に対し、積極的に呼びかけを実施。
- ◆いただいた寄附金は、「滋賀県競技力向上対策本部」で実施する、スポーツ選手の発掘、育成および強化に要する経費や、(仮称)彦根総合運動公園・新県立体育館などの施設整備に要する経費に充当。

③子ども・若者参画特別委員会(ジュニア・ユースチーム第6期)活動の展開

- ◆他県にはない『滋賀オリジナル』の取組として、小学生～大学生世代の子どもや若者で構成する「ジュニア・ユースチーム」が、その柔軟な視点や発想を活かし、両大会はもとより、広く県のスポーツ推進に関する課題等について調査研究を実施。

「開催申請書」の提出

- ◆文部科学省および公益財団法人日本スポーツ協会へ開催申請書を提出し、国民スポーツ大会の開催内定を得る(2019年7月17日予定)。

市町競技施設整備費補助

376,300千円

- ◆競技会場となる市町立施設の整備に要する経費に対する補助を実施。

基金の積立て 等

28,508千円

- ◆「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会運営等基金」に、企業や県民の皆様からいただいた寄附金を積み立てるとともに、一部を取り崩し、2019年度に実施する競技力向上対策事業に充当。
(2018年度末残高見込:約3,683百万円、2019年度事業充当 500千円)